

県民会議からの提案に関する参考資料

平成24年9月

目 次

提案内容の現状と取組み事例	1
（1）バリアフリー教育の充実.....	1
ア 小中学生向けバリアフリー教育の充実.....	1
イ 高校におけるバリアフリー教育モデル事業の実施.....	2
ウ 地域での自発的なバリアフリー教育の実施（地域の絆やコミュニティの再生） .	3
エ 協力と連携の包括協定を活用した事業者との協働事業の実施.....	4
（2）多様な人が住まう「街」への気づき、障害者理解の推進.....	5
ア 障害当事者間の相互理解、点字ブロック上の障害物撤去.....	5
イ 障害者用駐車場の利用方法.....	6
ウ 街中のトイレの情報提供やオープン利用に取り組むNPO法人との協働事業	7
（3）安心して出かけられる「街」の実現を目指して.....	8
ア バリアフリー関連情報充実.....	8
イ 駅、道路等の安全な移動経路の確保.....	9
ウ 災害時を見据えた安全なハード運用の確保と情報保障.....	12
エ バリアフリー、ユニバーサルデザインに配慮した施設整備.....	14
（4）条例適合率・遵守率向上に向けた取組み.....	17
（5）施設の計画段階における関係者の参画.....	18

提案内容の現状と取組み事例

(1) バリアフリー教育の充実

ア 小中学生向けバリアフリー教育の充実


(ア) 現状

学校教育では、障害のある幼児児童との交流や共同学習、「総合的な学習の時間」として高齢者との交流、車いす体験、高齢者疑似体験等の学習活動などを行い、課題発見・解決能力・コミュニケーション能力等の向上を図っている。

県保健福祉事務所では、普及啓発事業として、管内の小中学校、教育委員会、市町村の協力を得て、バリアフリー体験などの教室を開催している事例がある。

(イ) 取組み事例

【バリアフリー街づくり賞受賞者の取組み】

平塚市立太洋中学校における災害時要援護者支援の取組み	中学校の1～3年生が災害時における高齢者、障害者等の要援護者を支援する活動を体験する取組み
南足柄市立岡本小学校における福祉教育の取組み	<p>「福祉の心を育てる」をテーマに車いす等の福祉体験や学習発表会の実施などを通し、「心のバリアフリー」を学ぶ取組み</p>  <p>(かみかき夢タウンニュースより) <相手のことを思いやって介助します></p>

【県保健福祉事務所における取組み】

鎌倉市立稲村ヶ崎小学校	福祉教育実践研修会で、手話ソング、アイマスク体験により障害者の不便さや気持ちを知り、自分にできることを考える取組み
夏休み親子ふれあい講座「ユニバーサルデザイン探検隊」	ユニバーサルデザインの学習、高齢者体験装具や車いす使用による体験学習、茅ヶ崎駅周辺のバリアフリー建築物点検の取組み
港地区・太洋中学校災害対応講習会における色覚障害者の疑似体験	平塚市立太洋中学校において、災害対応の講習会において、色覚障害について学び、疑似体験を実施する取組み

【県内での取組み】

藤沢市の心のバリアフリーハンドブック	外出先や買い物等で困っている人を見かけたときの手助け方法などをイラストや写真を使って紹介、小学校の福祉教育などで活用
座間市立南中学校	総合的な学習の時間を使い「共に生きる」をテーマに、ボランティア団体から身体の不自由な人や高齢者との接し方や技術を学習
視覚障害者による福祉教育関係講師派遣事業	視覚障害者センター「神奈川ライトハウス」や各市町村の視覚障害者福祉協会から、総合学習及び福祉関係授業に講師を派遣し、小中学生に対し視覚障害者の理解を促進
福祉作文コンクール	県社会福祉協議会と県共同募金会では、学校生活や日々の暮らしにおける小中学生の「助け合い」や「思いやり」の心を育むため、「ともに生きる福祉社会」の取組みとして作文コンクールを実施

イ 高校におけるバリアフリー教育モデル事業の実施

(ア) 現状

県立高校では、ユニバーサルデザインの考え方の学習を行い、高齢者や障害者を思いやり、いたわる気持ちを持つ豊かな人間性を育み、高齢者等の自立を支援する能力や技術をもった人材の育成を進めている。

県立工業高校では、学習の一環として、ユニバーサルデザインに配慮した製品の研究開発を行っている。

県保健福祉事務所では、バリアフリーの普及啓発事業として、管内の高等学校の協力を得て、バリアフリー体験などを開催している事例がある。

(イ) 取組み事例

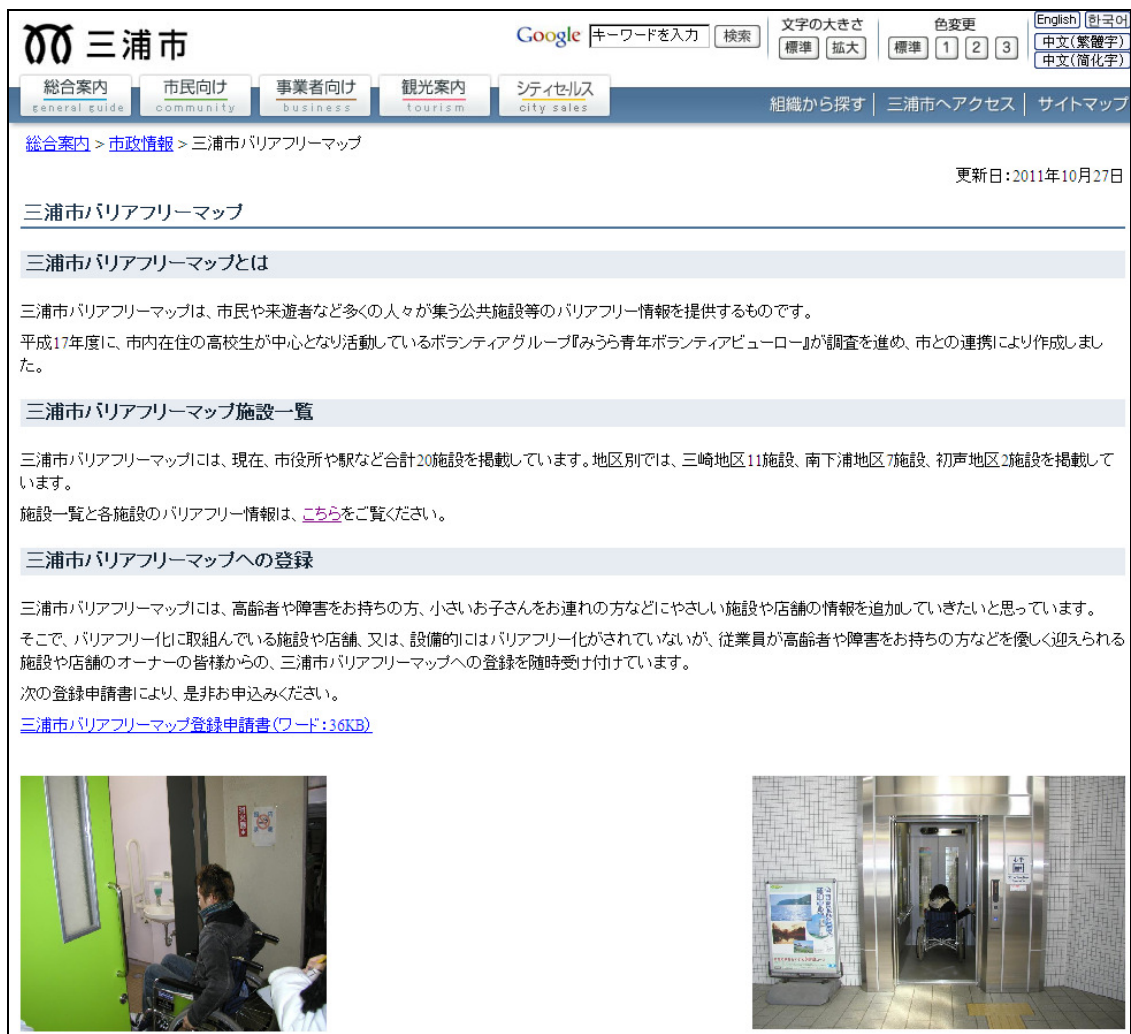
【県保健福祉事務所における取組み】

三浦臨海高等学校文化祭	高校の文化祭で高齢者疑似体験、色弱模擬フィルタ「バリエントール」疑似体験等による普及啓発の取組み
-------------	--

【バリアフリー街づくり賞受賞者の取組み】

みうら青年ボランティアビューロー	高校生を中心としたボランティア団体が、自ら車いすで三浦市内の施設を点検し、市と協働してバリアフリーマップを作成
------------------	---

みうら青年ボランティアビューローによるバリアフリーマップ作成の取組み(三浦市ホームページより)



三浦市

Google キーワードを入力 検索 文字の大きさ 標準 拡大 色変更 標準 1 2 3 [English] [한국어] [中文(繁體字)] [中文(簡化字)]

総合案内 general guide 市民向け community 事業者向け business 観光案内 tourism シティセルス city sales 組織から探す 三浦市へアクセス サイトマップ

総合案内 > 市政情報 > 三浦市バリアフリーマップ 更新日: 2011年10月27日

三浦市バリアフリーマップ

三浦市バリアフリーマップとは



三浦市バリアフリーマップは、市民や来遊者など多くの人々が集う公共施設等のバリアフリー情報を提供するものです。平成17年度に、市内在住の高校生が中心となり活動しているボランティアグループ『みうら青年ボランティアビューロー』が調査を進め、市との連携により作成しました。

三浦市バリアフリーマップ施設一覧

三浦市バリアフリーマップには、現在、市役所や駅など合計20施設を掲載しています。地区別では、三崎地区11施設、南下浦地区7施設、初声地区2施設を掲載しています。施設一覧と各施設のバリアフリー情報は、[こちら](#)をご覧ください。

三浦市バリアフリーマップへの登録

三浦市バリアフリーマップには、高齢者や障害をお持ちの方、小さいお子さんをお連れの方などにやさしい施設や店舗の情報を追加していきたいと思っています。そこで、バリアフリー化に取り組んでいる施設や店舗、又は、設備的にはバリアフリー化がされていないが、従業員が高齢者や障害をお持ちの方などを優しく迎えられる施設や店舗のオーナーの皆様からの、三浦市バリアフリーマップへの登録を随時受け付けています。次の登録申請書により、是非お申込みください。
[三浦市バリアフリーマップ登録申請書\(ワード:36KB\)](#)



ウ 地域での自発的なバリアフリー教育の実施（地域の絆やコミュニティの再生）

（ア）現状

県内の各地域では、社会福祉協議会、ボランティア団体、地域住民などが自ら学校の現場に出向き、まち点検や障害者体験教室を開催したり、市民講座を開催し、福祉教育の在り方を検討するなどの普及啓発などに取り組んでいる事例がある。

（イ）取り組み事例

【バリアフリー街づくり賞受賞者の取り組み】

バリアフリー・まち点検実行委員会	愛川町の住民が小・中・高等学校や福祉関係団体等と連携し、まち点検活動、点検に基づく提案の実施、道路等の改善への取り組み
伊勢原・福祉のまちづくりを進める会	伊勢原市内の小学校で、体験型バリアフリー教室を実施し、車いす等の体験学習
社会福祉法人逗子市社会福祉協議会 福祉教育拡充チーム	福祉教育の在り方を検討し、関係者及び市民に対して、「心のバリアフリー」を始めとした福祉教育の理念普及、実践への取り組み

【県内での取り組み】

秦野市社会福祉協議会での取り組み	秦野市立本町小学校4年生が参加し、車いす利用者、視覚障害者、聴覚障害者などの福祉体験サポーターとまち点検の実施
------------------	---

【障害や障害者理解への取り組み】

障害者理解促進事業 障害者AtoZ 出前講座 (神奈川県委託事業)	公共交通機関、宿泊施設、百貨店、飲食店など接客対応が求められる企業等の社員研修に障害当事者を派遣
---	--

秦野市社会福祉協議会での取り組み

(かながわ夢タウンニュースより)



メインプログラムのまち点検

愛川町「バリアフリー・まち点検実行委員会」での取り組み

(かながわ夢タウンニュースより)



グループで点検し、改善方法を考えます

エ 協力と連携の包括協定を活用した事業者との協働事業の実施

(ア) 現状

県では、「連携と協力に関する包括協定」をスーパーマーケット、コンビニエンスなどの事業者と締結し、広報誌「県のたより」等の配架による県政情報の発信を行うほか、子育て支援、高齢者・障害者支援など多分野での連携と協力を進めている。

包括協定先(順不同)

株式会社ファミリーマート、株式会社セブン-イレブン・ジャパン、株式会社イトーヨーカ堂、株式会社そごう・西武、株式会社サークル K サンクス、株式会社スリーエフ、イオン株式会社、中日本高速道路株式会社

(イ) 取組み事例

子育て支援	「かながわ子育て応援パスポート」授乳室などの設備、割引・優待サービス等の提供により子育て家庭の外出を応援
高齢者支援	「認知症サポーター養成講座」認知症についての正しい知識を習得し、認知症の方を応援
障害者支援	障害者への理解や障害者の地域における社会参加を促進するため、障害特性を配慮した接客応対等に関する研修実施

包括協定に基づく取組み例

「かながわ子育て応援パスポート」への協力利用者登録関連イベント

(子育て支援情報サービスかながわより： 社団法人かながわ福祉サービス振興会運営)

問い合わせ 神奈川県保健福祉局 福祉・次世代育成部次世代育成課

**大人も子どもも楽しめる！
「かながわ子育て応援パスポート」
キックオフイベント**



「身長100cmの子どもから見た家具は、どんなに大きく見えるのか？」を肌感覚で体感できるよう、通常の1.6倍のサイズで机やベッド、ソファを製作した“オトナサイズ”の展示や本事業のイメージキャラクター「金太郎」の着ぐるみも登場。その他、その場で会員登録ができるコーナーも設置しております。皆様、お近くの会場にぜひ遊びに来てください！

オトナサイズとは？

4歳児の平均身長は約100cm。お母さんの平均は約160cm。親子には、1.6倍の差があります。オトナは、自分が子どものころ、何を考え、どんな不安を抱えて、そしてどんな世界を経験したか覚えていませんか？ オトナサイズでは、オトナの体のままで、子どもたちが見ている大人のサイズを体感していただけます。




(2) 多様な人が住まう「街」への気づき、障害者理解の推進

ア 障害当事者間の相互理解、点字ブロック上の障害物撤去

(ア) 現状

歩道等において、視覚障害者を誘導する視覚障害者誘導ブロック(点字ブロック)は、視覚障害者にとっては歩行の安全を確保する大切な役割をもっている。

一方、車いす利用者や高齢者、ベビーカー利用者からは、敷設された点字ブロックにつまづくことや通過時の振動による身体影響などを訴える声もあり、立場により考え方が相反している。

点字ブロックの色は、黄色を原則としているが、周辺床材と敷設された点字ブロックの濃淡差がわかりにくいものを使用するなど色弱者や色覚障害者が判別できないものが設置されている事例がある。

また、点字ブロック上にバイク、自転車、荷物、看板などを置いて、視覚障害者の歩行の妨げになっている事例がある。

(イ) 取組み事例

障害当事者サポーター養成事業における取組み	研修時に車いす利用者によるアイマスク体験、視覚障害者による車いす体験などを通じ、障害当事者間の相互理解への取組み
心のバリアフリーに関する普及啓発	点字ブロック上にもものを置かないように、点字ブロックの必要性や、心がけについて広報誌やホームページで呼びかけ

新たなる試み事例

カラーバリアフリーや車いす利用に配慮した点字ブロック研究	東京大学では、周辺部の背景とも調和のとれる色使いで、車輪通行部分に凹凸面がない点字ブロックの敷設実験、研究を実施中
------------------------------	---

啓発用チラシ(県作成)より抜粋

視覚障害者誘導用ブロック (点字ブロック) の上に 自転車を止めたり、 物を置いたりしてませんか？





「止まれ」の点状ブロック
(警告ブロック)

歩道や駅のホームなどで、黄色い色の点状や線状のブロックが見られますが、これは視覚に障害のある方たちが安心して歩くことができるように設置しているものです。点字ブロックは形によって意味が異なり、点状のものは、危険地帯との境目を示し、駅のホームや交差点や階段付近などに、線状のものは、その上を足か白杖でたどることができることを示し、歩道や建物の中などに設置されています。

この点字ブロックの上に自転車やバイクなどが停まっていたり、物が置かれていることがあります。大変危険であり、視覚に障害のある方が、ぶつかって怪我をすることもあります。

視覚に障害のある方が、安全に街中を歩くことができるよう、点字ブロックの上に物を置いたり、ふさいだりしないようにして下さい。



自転車でふさがれた視覚障害者誘導ブロック



「進め」の線状ブロック
(誘導ブロック)




イ 障害者用駐車場の利用方法

(ア) 現状

みんなのバリアフリー街づくり条例では、一定規模の施設をつくる場合、車いす利用者などが利用できる駐車区画の確保を行うこととしており、ドアを全開にしないと自動車への乗降が困難な車いす利用者などのために整備基準で幅を広くしている。

しかし、こうした駐車区画は、店舗入口近くに設置されていることなどから、必要のない方が駐車してしまい、車いす使用者が駐車できないことがある。

(イ) 取組み事例

心のバリアフリーに関する普及啓発	必要のないかたは車いすマークのついた駐車区画に車を停めないよう心がけについて広報誌やホームページで呼びかけ
パーキング・パーミット制度	<p>身体障害者用駐車場の適正利用を図るため、当該駐車場を設置する事業所等の協力を得て、利用対象者を明らかにする利用証を交付し、駐車スペースを確保する制度</p> <p>24府県、3市で実施中(H24.2.1現在)</p>  <p>身体障害者、高齢者、一時的に歩行が困難な方 難病患者等 【有効期間:3年間】</p> <p>（けが人、妊産婦） 【有効期間:1年未満】</p>  <p>車内に掲示</p>  <p>協力施設の案内板</p>
民間施設での車いす使用者専用駐車場の確保	<p>県内では民間事業者において、一般車両が入れない車いす専用駐車場を整備している事例がある。</p> <p>【アリオ橋本：バリアフリー街づくり賞受賞】</p> <p>事前登録し配付されたリモコンで専用ゲートを開閉し、車いす使用者専用駐車場（9台）を確保</p> <p>【イオン久里浜店】</p> <p>事前登録し配付されたリモコンで専用ゲートを開閉し、車いす使用者専用駐車場（7台）を確保</p>

身体障害者手帳交付者数（障害別）

	H21年度	H22年度
総数	245,951	251,146
視覚障害	17,321	17,333
聴覚・平衡機能障害	20,948	21,246
音声・言語・そしゃく機能障害	2,538	2,585
肢体不自由	135,798	137,873
内部障害	69,346	72,109

(各年度3月31日現在)

啓発用チラシ(県作成)より抜粋

車いす用の駐車区画に停めていませんか？



公共施設や店舗等の駐車場を利用するとき、車いすのマークがついている駐車区画を見ることがあると思います。これは、車いすの方はドアを全開にしないと自動車への乗降が困難であることから、幅を広くとって設置しているものです。

せっかく設けたこの区画ですが、身体に不自由のない方が駐車しているため、車いす使用者が困っているケースがあります。

本当に必要としている方がいつでも利用できるように、県民の皆さん一人ひとりにご理解いただき、必要のない方は停めないように、ご協力をお願いします！！



車いす使用者用駐車区画
(しま標様の部分は車いすでの乗降の際に必要なスペース)

神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例[®]では、車いす用駐車区画を次のように定めています。

1. 幅を3.5m以上にする
2. 車椅子マークを付ける
3. 駐車場内での移動のし易さから、施設の出入口にてできるだけ近いところに設置する

ウ 街中のトイレの情報提供やオープン利用に取り組むNPO法人との協働事業


(ア) 現状

だれもが、安心して出かけるためには、街中のトイレの情報は大変重要であるが、街中のトイレは数も多く、バリアフリー化などの設備状況、気軽に利用できるのかなど、情報更新の維持管理負荷が大きい。

携帯電話、スマートフォンなどの情報通信機器の進展に伴い、事業者の中には、一般の方から街中にあるトイレ設備などの情報を随時登録し、これを提供する仕組みを構築している事例がある。

また、みんなのトイレは、様々な方の利用が可能なことから、必要以上にトイレ内を占有したり、乳幼児用ベッドの収容を忘れたために車いす利用の方が利用できないなど、利用方法についても意見が寄せられている。

(イ) 取組み事例

<p>NPO法人によるオープントイレプロジェクトの取組み</p>	<p>NPO 法人 Check 一般利用者が更新、閲覧可能な日本全国の多機能トイレ情報をインターネット上で共有するサービス「Check A Toilet」を構築（携帯電話等での利用も可）</p> <p>オープントイレプロジェクト 「誰もが気軽に借りることができる」多機能トイレ、一般トイレをインターネットや店舗・施設の入口に貸出しサインを掲示する事業（元町・中華街・山下地区で開始）</p> <ul style="list-style-type: none">・店舗の入口に掲示するトイレの貸し出しサイン 
----------------------------------	---

(3) 安心して出かけられる「街」の実現を目指して

ア バリアフリー関連情報充実

(ア) 現状

街中のバリアフリー施設、道路、交通情報などを「バリアフリーマップ」として提供している事例がある。(災害時の情報関係は後述)

また、旅行支援として、障害者や高齢者などの観光の際に看護師やホームヘルパーを提供する取組み事例もある。

(イ) 取組み事例

市町村のバリアフリーマップ情報	県内では、横浜市、相模原市、横須賀市、鎌倉市、三浦市が独自のバリアフリーマップを作成し、ホームページ上で情報提供
民間のバリアフリーマップ情報等	「Check A Toilet」一般利用者が更新、閲覧可能な日本全国の多機能トイレ情報をインターネット上で共有するサービス(再掲)
	公益社団法人日本オストミー協会神奈川支部では、オストメイト対応の設備が設置されたトイレの情報をホームページ上で公開
	社団法人神奈川県観光協会では、県内の観光地のバリアフリー施設の情報をホームページ上で公開(「観光かながわNOW」)
	箱根温泉旅館協同組合では、箱根の温泉のバリアフリー対応宿泊施設情報の検索ができるホームページ「箱びた」を構築
	日本旅行業協会:バリアフリー旅行の案内 全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会:高齢者、障害者にも安心な宿情報案内
	特定非営利活動法人神奈川県障害者自立生活支援センターでは、車いす利用者が使いやすい県内飲食店を検索できる携帯用ホームページ「バリぐる」を運営
触る地図 横浜バリアフリーマップ	横浜市協働事業提案制度モデル事業で視覚障害者に対応した触る地図を作成、視覚障害者や車いす利用者が作成段階から参加

他の都道府県での新たな取組み

伊勢志摩バリアフリーツアーセンター	バリアフリー観光案内センターとして宿泊、観光施設、旅行アドバイスを障害者を含むスタッフが常駐で行うNPO法人
京都バリアフリー観光案内所	株式会社旅のお手伝い楽楽が、バリアフリー観光情報提供、旅行をサポートしてくれる看護師やホームヘルパーを提供

触る地図 横浜バリアフリーマップ



平成17年度横浜市協働事業提案制度モデル事業
市民団体:横濱ジェントルタウン倶楽部
横浜市健康福祉局

関内周辺、山下公園周辺、みなとみらい周辺地区の観光、バリアフリー施設の情報を掲載

イ 駅、道路等の安全な移動経路の確保

(ア) 現状

○駅（鉄道）

県内の駅舎では、鉄道事業者、県、市町村が連携し、エレベーター設置など 237 駅(H23. 3 現在)がバリアフリー化されている。

乗降客の安全、安心確保のために*ホームドア、音声案内付触知案内板、高さを調整した券売機、車いす対応改札口、カラーバリアフリーに配慮した案内板の設置事例がある。

また、困った方を見つけた場合の声かけ運動の実践も行われている。

ホームドア：ホームからの転落や列車との接触事故防止のため、プラットホームの線路に面する部分に設置される、可動式の開口部を持った仕切り



バリアフリー化された駅のエレベーター

○バス

出入口の段差をなくし乗降を容易にした低床バス（ノンステップバス）の導入、車いす固定ベルトの色分けによる固定時間の短縮化、車いす、ベビーカー利用者専用降車ボタンの設置、運行状況を情報提供として接近掲示板、歩道のバス乗降場所の改良事例がある。



ノンステップバス

○タクシー

後部左座席が可動して乗降が容易になるウェルキャブ車、車いすやストレッチャーなどを直接積むことができるリフト付タクシーの導入事例がある。

○道路

歩行者の安全確保に配慮した歩道、立体横断施設、視覚障害者用信号機などの整備、整備後には道路パトロールによる維持管理を実施している。

(イ) 取組み事例

【好事例集】



だれもが利用しやすい施設・お店 好事例集	県内の各店舗（企業）での設備や接客など障害者に対する配慮や積極的なバリアフリー化に取り組んでいる事例集 公共交通機関の事例集も掲載
-------------------------	--

【バリアフリー街づくり賞受賞者の取組み】（写真：かながわ夢タウンニュース、記者発表記事より）

箱根ロープウェイ駅舎・ターミナル、ゴンドラ、箱根海賊船	箱根ロープウェイの早雲山～大涌谷～桃源台間の駅舎、ターミナル、ゴンドラ、箱根海賊船の改良などの一体的・連続的なバリアフリー化の実施
-----------------------------	---



車いすのまま乗車可能なゴンドラ

<p>海老名駅駅舎部自由通路</p>	<p>自由通路の整備、視覚障害者誘導用ブロック、周辺案内板に音声信号の設置などにより分断されていた駅を一体化</p>	
<p>川崎駅東口駅前広場及び東西連絡歩道橋</p>	<p>バス島の集約、エレベーター増設、東西連絡歩道橋の整備などにより歩行者の移動の円滑化、駅周辺の回遊性の向上</p>	

【県内での取組み】

<p>平塚駅北口駅前広場のバリアフリー化</p>	<p>バス乗降場をロータリーの外側（歩道沿い）に配置、エレベーターの設置により、安全、便利な移動の円滑化</p>	
<p>鎌倉駅西口のバリアフリー化</p>	<p>JR駅構内バリアフリー化、鎌倉駅西口から市役所等へ通ずる歩道の整備や段差の解消などを実施。歩道の材質やデザインの市民意見、小学校の冠木門などとの景観に配慮した整備を実施</p>	 <p style="font-size: small;">緑化や景観に配慮し、既存の樹木を保存しながらバリアフリー化を実現</p>
<p>相模鉄道株式会社の人に優しい駅づくり</p>	<p>駅係員のサービス介助士2級の資格取得、接遇向上研修、普通救命講習の受講、全駅にAED、コミュニケーションボード、筆談機、車いすを設置</p>	 <p style="font-size: small;">お客様を筆談機で案内</p>
<p>東日本旅客鉄道株式会社横浜支社</p>	<p>駅係員のサービス介助士2級の資格取得、サービスマネージャーの配置、簡易筆談器やバリアフリー設備案内パンフレットの設置</p>	 <p style="font-size: small;">社員による高齢者体験</p>
<p>横浜市交通局での取組み</p>	<p>内閣府バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰 交通案内図、運賃表、行先案内図、所要時間案内図、構内案内図、トイレ案内図などを工夫し誰でも見やすくわかりやすいサイン実現</p>	
<p>横浜市交通局駅ボランティア</p>	<p>駅ボランティアが、高齢者や障害者などの方々への移動、切符の購入、荷物の運搬のお手伝いなど、駅で困っている人のお手伝いをするソフト面での取組み</p>	

【参考となる県民意見】

<p>相模原市の光ヶ丘地区での取り組み</p>	<p>相模原市の光ヶ丘地区で、16年前から、まち点検をやっている。その点検のおかげで、道路の陥没したところを優先的に直してもらえた。また、通学路が広くなったり、段差がなくなった。初めは社協が主体的になって取り組んでいたが、そのうち市の道路所管課が参加するようになった。住民サイドが行政に働きかけていくことが必要だ。(原文のまま)</p>
-------------------------	--

【新たなる取り組み事例】

<p>国でのホームドア等に向けた取り組み</p>	<p>平成23年3月31日に移動等円滑化の促進に関する基本方針を改正し、ホームドア・可動式ホーム柵について、優先的に整備すべき駅の検討などを新たな目標(平成32年度末)設定 ホームドアの整備促進等に関する検討会を設置し、ハード、ソフト面での対応を検討</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="614 719 815 748"> <p>【可動式ホーム柵】</p> </div> <div data-bbox="1019 719 1171 748"> <p>【ホームドア】</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <p data-bbox="630 1025 810 1055">横浜市営地下鉄</p> <p data-bbox="1011 1025 1270 1055">金沢シーサイドライン</p> </div>
<p>エスコートゾーンの取り組み</p>	<p>道路を横断する視覚障害者の安全性及び利便性を向上させるために横断歩道上に設置され、視覚障害者が横断時に横断の手かかりとする突起体の列をエスコートゾーンとして整備 県内では設置に向け調査実施中</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

ウ 災害時を見据えた安全なハード運用の確保と情報保障

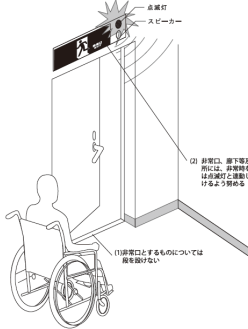

(ア) 現状

東日本大震災後の計画停電については、バリアフリー対応がされている施設でも、その運用によっては、安全性に支障が生ずることがあった。

また、災害時に情報が伝わらず、避難誘導や避難所生活に不安を感じているとの県民意見が寄せられた。

主な県民意見	内容
計画停電時の対応	<ul style="list-style-type: none">・ 計画停電の際に、エスカレーターが使えなくなり、エレベーターを利用するように言われたが、エレベーターを利用する場合の経路が出口からかなり遠くなっており、不便だった。・ 計画停電の時は、音響信号機も止まってしまうので怖い。・ 節電の関係で、色々なところで消灯しており、弱視の方は困っていると思う。・ 障害者の中には、温度調整がうまくできない人もいる。これから、節電で電車も弱冷房になったら、そういう人は夏を越せない。
災害時の情報伝達等	<ul style="list-style-type: none">・ 災害時に、障害者が困ったときの窓口ができるとうれしい。・ 災害があったときに、役所の人が広報車でお知らせを放送していたが、分からない。メール等のお知らせもあるが、震災後に聞こえないと困るなど非常に感じた。目に見えるよう情報の保証をしてほしい。・ 視覚障害の方は、避難所の張り紙だけでは、情報が伝わらない。例えば、食事時間の変更が、張り紙による案内だけでは、変更を知らずに食べ損なうこともある。

(イ) 取組み事例

東京電力への要請	県と東京電力との情報・意見交換会での確かな需要見通しによる計画停電回避、実施時には障害者への配慮等要請を実施
神奈川県公園バリアフリーガイド	神奈川県下全 143 箇所の広域避難所に指定された公園・緑地、および公園周辺と最寄駅のバリアフリー情報を掲載 特定非営利活動法人 神奈川県障害者自立生活支援センター
障害者のための防災マニュアル	障害別に防災を考えるうえで必要な心構えのポイント紹介や災害に直面した時に落ち着いて行動するための準備・ノウハウ 特定非営利活動法人 神奈川県障害者自立生活支援センター
整備ガイドブック、宿泊施設ガイドラインにおける誘導対応の取り組み	<p>「みんなのまちづくりバリアフリー整備ガイドブック」 「だれもが利用しやすい宿泊施設を目指して～ガイドライン～」</p>  <p>電光表示板の例</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ 光と音で知らせる装置のついた非常口（視覚、聴覚障害） ・ 客室には非常ベル等の音声以外の客室テレビの文字放送、従事者が緊急を知らせるプラカード持ち回り（聴覚障害） ・ 介助を要する方と緊急時のスタッフ入室など話し合い、訓練
カラーバリアフリーなどに配慮した案内板等	目的地までの経路情報を得やすくし、高齢者、障害者等が建築物を円滑に利用できるよう「標識」や「案内板」を設置 整備の際には、子どもや知的障害者を含む多くの人が理解できるように、大きく分かりやすい平易な文字や記号、図等で表記

ピクトグラム：「絵文字」の例（出展：交通エコロジー・モビリティ財団）

非常口



広域避難場所



ピクトグラム：「絵文字」 〔絵単語〕 情報や注意を示すために表示される視覚記号（サイン）の一つ

エ バリアフリー、ユニバーサルデザインに配慮した施設整備

(ア) 現状

不特定多数が利用する一定規模以上の施設を整備する場合には、条例に基づき事前協議等が必要であり、整備基準を遵守した施設のバリアフリー化が求められている。

(イ) 取組み事例

【ガイドライン、アドバイザー派遣】

みんなのバリアフリーまちづくり整備ガイドブック	事業者、設計者向けにバリアフリーの街づくりの考え方や条例の整備基準の解説
既存建築物のバリアフリー化整備事例集	既存建築物で段階的なバリアフリー化や部分的なバリアフリー化の参考となる店舗や銀行等のバリアフリー化事例や考え方を解説
だれもが利用しやすい宿泊施設を目指してガイドライン・事例集	ガイドライン…障害者や高齢者等が気兼ねなく宿泊できる施設の設備、配慮、サポート内容をまとめたもの 事例集…宿泊施設が参考となるような実践的な事例集
だれもが利用しやすい施設・お店好事例集（再掲）	県内の各店舗（企業）での設備や接客など障害者に対する配慮や積極的なバリアフリー化に取り組んでいる事例集
バリアフリーアドバイザー派遣	バリアフリーアドバイザー、障害当事者を無料で派遣し、既存施設の改善方法、概算費用見積、簡易図面の作成等の提案を実施
カラーバリアフリーアドバイザーの派遣・相談出前窓口	色覚障害者(NPO 法人カラーユニバーサルデザイン機構職員)が、既存案内板等の色使いを検証し、改善についての指導・助言、相談の実施
カラーバリアフリー色使いのガイドライン	色覚障害者への配慮、工夫について解説し、見わけやすい色使いの方法、事例、チェックポイント等を記載
カラーバリアフリーサインマニュアル	「標識」「案内板」をカラーバリアフリー化する作成手順、事例、チェックポイント等を記載
住まいのバリアフリーリフォームコンクール	社団法人かながわ住まい・まちづくり協会では、住宅におけるバリアフリーリフォームの普及と技術力向上を図るため、バリアフリー化への配慮を重視した優秀な施工事例を表彰

(かながわ夢タウンニュースより)



アドバイザーによる診断

【バリアフリー街づくり賞受賞者の取組み】

大和市立光丘中学校	車いす使用者やオストメイトの方も利用できる多機能トイレ、エレベーター設置など、誰にも使いやすい学校施設づくり
株式会社みずほ銀行大船支店	店舗のバリアフリー化、高齢者、障害者等に優しい接客方法をまとめたマニュアルやビデオを作成し社員研修の実施
特別養護老人ホーム縁JOY	利用者の視点でのバリアフリー化とともに、保育所を併設し、地域に施設を一般開放、地域住民と触れあう生活環境の整備
平塚市西部福祉会館	親子で利用できるトイレの整備、出入口の点字ラベル貼付など建物のユニバーサルデザイン・バリアフリー化の実施
リコーテクノロジーセンターC棟	カラーバリアフリーに配慮した標識やエレベーターの表示ボタン等の先進的な取組み
開成町立開成南小学校	オストメイト対応設備やカラーバリアフリーの視点を踏まえた整備を進め、段差のない開放的な空間を持つ施設を整備
アリオ橋本	低速運転エスカレーター、お問い合わせコール、事前登録者がリモコンでゲートが開閉する車いす利用者用駐車場などを整備

(写真:かながわ夢タウンニュース、記者発表記事より)

平塚市西部福祉会館



＜ 親子で利用できるトイレ ＞

アリオ橋本



車いす利用者用駐車場

【県内での取組み】 (写真:かながわ夢タウンニュース)

旧箱根町湯本中学校 (アドバイザー派遣による既存施設改修事例)	廃校した中学校を福祉施設へ用途変更、身障者車両駐車区画の整備、室内のバリアフリー化の提案をもとに改修工事の実施
横須賀芸術劇場 (アドバイザー派遣による既存施設改修事例)	車いす用トイレの改善(器具の設置位置の見直し)、位置が低く握りやすい手摺りの新設などをアドバイザー診断に基づき実施

<p>秦野市観光課弘法の里湯</p>	<p>点字ブロック敷設、段差解消、廊下には利用する人の身長を考慮した2段の手摺り、車いす対応の浴室などを設置</p>
<p>萩原歯科医院 (南足柄市) (小規模施設整備例)</p>	<p>延床面積100平米。ポーチや玄関の段差をフラット化、靴のまま上がる診察台、限られた敷地を活用した車いす使用者用駐車区画整備</p>  <p>車いす使用者用駐車区画やスロープを設置</p>
<p>川崎市立はるひ野小中学校 (市内初の小中合築校)</p>	<p>広いドア幅、音声案内、点字表示を備え付けたエレベーター、わかりやすく見やすいサイン (点字、絵文字、表示の大型化)などを設置</p>  <p>見やすいサイン</p>
<p>イオン茅ヶ崎店</p>	<p>扉の開閉速度が遅い障害者用エレベーター、高さを調節できる昇降式テーブル、車いすのまま入れる試着室など整備、サービス介助士2級の資格取得</p>  <p>昇降式テーブル</p>
<p>神奈川県立辻堂海浜公園</p>	<p>段差の解消、車いす使用者も花に近づけるみんなの花壇、みんなのトイレ、障害者用駐車区画、プール専用車いすなどの整備</p>  <p>車イス プール専用車いす</p>
<p>株式会社伊勢原自動車学校</p>	<p>障害者等の話し合いを通じ施設や建物をバリアフリー化、教習車両の改良、研修や講習のための施設提供実施。</p>  <p>障害のある方に幅広く対応する教習車両</p>

(4) 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み

(ア) 現状

条例の適合率、遵守率が低下傾向にある。

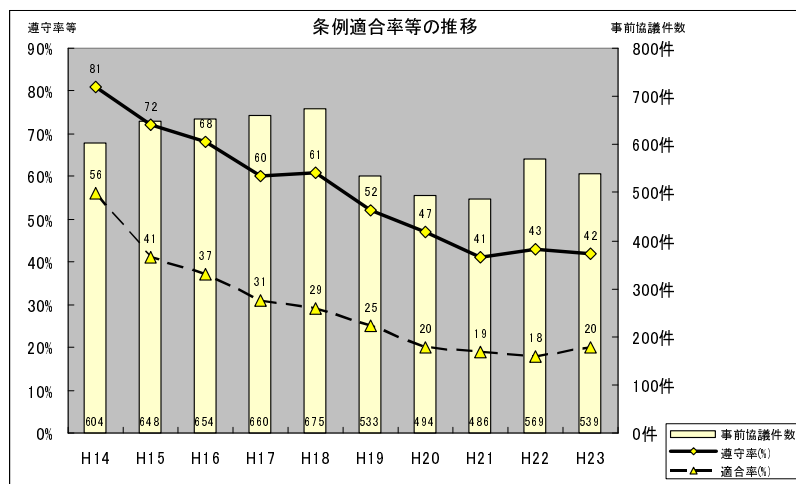
年度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
事前協議件数	604	648	654	660	675	533	494	486	569	539
適合率(%)	56	41	37	31	29	25	20	19	18	20
遵守率(%)	81	72	68	60	61	52	47	41	43	42

適合率＝全項目適合の件数／事前協議件数×100

遵守率＝(全項目適合の件数＋13条(前段・後段)適用の件数)／事前協議件数×100

条例第13条 前段:整備基準を遵守する場合と同等以上に障害者等が安全かつ快適に利用することができる場合

後段:規模、構造、利用の目的、地形の状況等により整備基準を遵守することが困難である場合



(イ) 取組み事例

条例事前協議の審査担当窓口によるワーキング検討	適合率、遵守率を向上させるため、現行の整備基準の見直し、事業者の取組みを促すための制度などの検討を実施
-------------------------	---

ホームページ掲載イメージ

みんなのバリアフリー街づくり条例の適合証交付施設

県では、不特定かつ多数の者が利用する施設を公共的施設とし、高齢者や障害者等が安全かつ快適に利用できるようにするため、みんなのバリアフリー街づくり条例に定める整備基準への遵守を求めています。

そのうち特に公共性が高い施設を指定施設として、指定施設を新築や改築等をする場合は、知事との事前協議を義務付けています。

そして、条例の整備基準に適合した場合は、施設所有者等の請求に基づき、「みんなのバリアフリー街づくり条例適合証」を交付しています。

施設名称	施設用途	所在市町村	交付年月日
〇〇〇大和店	店舗	大和市	H23. 〇. 〇

(5) 施設の計画段階における関係者の参画

(ア) 現状

条例では、県自ら設置し、管理する施設等については、障害者等が安全でかつ快適に利用できるように配慮し、整備に努めるとなっている。

既存公共施設のバリアフリー化を推進するため、バリアフリーに熟知した建築士と障害当事者による「バリアフリーアドバイザーの派遣」、施設における案内板、サイン等が色使いの点から利用者に使いやすいものになるよう「色覚障害当事者によるアドバイザー派遣」を実施している。

(イ) 取組み事例

障害当事者サポーター養成研修事業	街づくりやバリアフリー教育の際に適切な助言が行える人材育成の研修事業を行い、修了者は派遣可能者として登録
逗子市公共施設整備福祉適合委員会	障害者を含む委員会で、施工前の計画段階から利用者としての目で検討・審査する仕組み

逗子市公共施設整備福祉適合委員会(かながわ夢タウンニュースより)



当事者参加による施設整備

～逗子市公共施設整備福祉適合委員会～

逗子市福祉部福祉課

1 経緯

公共施設の整備について、従来は実施設計の段階で、福祉の街づくり条例の整備基準を遵守する等行政内部でのバリアフリー化の検討を行い、対応してきました。

しかし、使い易さなどに関するきめ細かい配慮については限界があり、実際に施設が出来上がると利用者からは指摘や批判を受けることがありました。

そこで、逗子市では、障害のある当事者をメンバーに加えた「逗子市公共施設整備福祉適合検討委員会」を平成12年8月に発足させ、施設が出来上がってから指摘の部分を改修するのではなく、施工前の計画段階から利用者としての目で検討・審査することによって、福祉の視点から使い勝手や安全面で問題がないかどうかを事前にチェックし、当事者の意見を設計に反映させていくことになりました。

2 委員会の概要

委員は11人以内（平成19年度現在10人）で、構成メンバーは、知識経験を有する者、障害者等及び障害者関係団体の代表者、高齢者関係団体の代表者、逗子市社会福祉協議会の職員、市民、市職員（平成19年度はいない）及びその他市長が必要と認めるものとなっています。

3 当事者参加による施設整備の流れ

福祉課は年度当初に当該年度中に予定される公共施設の整備・改修等について各主管課に照会します。

- ① 工事主管課から施設整備に係る協議書が福祉課に提出されます。
- ② 福祉課は「逗子市公共施設整備福祉適合検討委員会」を開催します。
- ③ 委員会での協議事項をまとめます。
- ④ 事務局で精査し、「委員会審査結果報告書」を市長に報告・主管課長へ送付します。
- ⑤ 主管課は報告書の内容を各事業に反映させます。



4 実績

平成12年の発足から平成20年2月現在までに25回の委員会を開催しました。

検討施設の用途は市営住宅、集会所、トイレ、公園、道路(歩道整備)、子育て支援センター、文化教育ゾーンなど、協議事項は主に、サイン関係、トイレ、駐車場、スロープなどです。

以下は、委員会の意見を反映して整備した市民交流センターの事例です。



障害者用更衣室



障害者トイレ案内板

5 今後に向けて

より理想的な施設整備を目指して、当事者の体験や知恵を活かしながら委員会で検討することにより、ガイドラインやデザインマニュアル等には記載されていない、具体的で障害の多様性にも配慮した工夫が可能となっています。今後は福祉のまちづくりの視点から、これらの手法や工夫が市の施設以外にも波及することが期待されます。

【お問い合わせ】
 逗子市福祉部福祉課
 〒249-8686 逗子市逗子5-2-16
 TEL (046)873-1111 FAX (046)873-4520